

磐城時報

日八廿月... 印刷所 磐城印刷所... 電話 二二二

内容説明後直に散會 質問戦展開せず

議案調査で二日間休會

來月二日から繼續

豫算のふけ町會

四十九萬九千二百圓の質懸應答をなしたのも豫決豫
龍大な積極豫算を審議算とも調査委員を任命三日に
する平町豫算町會は今更なる委員の調査を經た上六日
廿八日午前十時から招へる本會議を招集正式可決の運
集、青沼町長から一時に至る模様である。なほけふ
間有余に互る詳細な豫の町會では磐城高等女學校講堂
算説明があつたのみで正門建設費五百圓の町費寄付の
都合により散會したが、中野勇吉氏訴願にかゝる戸
豫算内容に就ては審議なる調査敷割異議申立てに對する答申書
を必要とするため前例により明を諮問案通り可決したのみで二
日から二日間休會し、二日前午十時に近し提出議案はいづれも
十時から一讀會を開き各議員が繼續町會に持越された。

授業料値上案の内容

ついでに商業受検料も引上げ

既報—平町の授業料値上げは同じく高等小學校授業料は従來
前記町會に提出されたが内容は一ヶ月八十錢を一圓に改定、
平商業學校授業料に於て従來一高等科児童五百七十人より徴収
ヶ月四圓二十錢であつた區外生する額は六千二百七十圓となり
徒の分を四圓五十錢に引上げ、前年度より一千四百三十圓の増
れによつて
區外生徒三百廿五人十一月規程によれば一ヶ月三十錢を最
分合計一萬六千八百七十七圓と算 高限度とするが町村財政の状態
定、前年より一六千八百八十 圓に依り適宜引上げ得ることにな
二圓を増取する外従來まで一 圓五十錢であつた同校入學檢
定料を二圓に値上げ、この入 收を實行して來たが、なほ十一
學志願者二百三十人と算定し、年度より向ふ三ヶ年間繼續せん
て前年度より九十圓を増取すとするものである。

各種団体へ補助

總額二千九百圓

平町では町内各種団体に對する
十一年度補助額を左の如く内定
町會に付議した、いづれも前年
通りで新たに平自警會が加へら
れ總額二千九百圓である。
教育會七十五圓、青年團四百

萩原氏の所説を反駁

石川町長が聲明

湯本の温泉坑口地所問題

湯本町長石川徳壽氏は去る十九
日夜同湯本座に於て開かれた比
佐昌平氏の政見發表演説會の席
上萩原義雄氏がなした演説の内
容中「温泉坑口地所問題及び平
小鐵道湯本廻り請願運動に關す
る所説」は事實全く相違せるも
のとして「町民諸君に告ぐ」と題
する左記聲明書を廿七日全町民
に發表冷靜なる判断を要する
ところであつた。
一、萩原氏が温泉坑口地所問題
に介入したるは自發的に出た
事であつて湯本町として解決
方を依頼したるべし、斷じてな
きは愛湯會長川崎氏も知つて
居る事でありませぬ。
二、比佐昌平氏兄弟は坑口土地
使用については(比佐家地處
を)絕對に承諾して居りませぬ。
三、萩原氏が公開せる如く比
佐氏が快諾せるにも不拘石川
町長は其の判を取りに來ない金
として金百圓を寄附した。

更生の自首は出鱈目 輕處分を希む一芝居

平署の追究に餘罪續々バレル

犯した罪を消滅して更生の道に
踏出さんと數日前平署に自首し
て出た相馬郡八幡村生れ野木光
(二七)について平署ではその
動機が不審なので慎重取調べを
進めたところ意外にも彼は當局
の嚴重な追究に包み切れず最近
郡山方面でレヂスター専門に三
件その他數件の窃盜を働らいた
ことを自白した。平署では「更
生します」といふ彼の言葉は刑
罰を逃れたさの虚偽の申立てと
見込み引續き取調べてゐる。
即ち野木は出獄後唯一の犯罪
として盜竊町海産物商鈴木玉
吉方から店員になるを稱してこ
二十餘圓の前借詐欺をしたこ
とを申立てたが、これをへ自
白すれば郡山市内の犯罪は
かくし終はして微罪として取
扱はれるものと愚かな考へか
ら前記の一芝居を打つたもの
と判明した。

地方教育界の功勞者

酒井ヨ女子逝く

平町播磨小路平陽女學校校長酒井
ヨ女子は病氣の處二十七日午
前三時死去した、享年七十四才
葬儀は三月一日自宅出棺平町長
橋町性源寺に於て執行する。
酒井女子は明治三十八年平町
田町に平陽女學校を創立し地
方女子の教育に従事し、そ
の後發展して校舎狹隘を告げ
現在の校舎を新築して今日に
至つたもので
卒業生を出す事二千餘名に達した。

平工業組合設立

河田梅吉氏等が

平町彌宜町二河田梅吉氏外三名
が今回平町工業組合を設立する
ことになり二十六日縣局當に設
立認可を申請した。同組合は鐵
工機械の製造販賣を業とするも
ので事業の統制、價格の統制を
計る一方原料及び材料の共同購
入を行ふものである。

かまぼく製造
折詰庄
平町一丁目(電話一四一番)
た惣菜用
さつま揚
吉原揚

